

全国高等専門学校ロボットコンテスト2014 全国大会観戦記

大島商船高専 大島 圭介

「おお、また勝ったぞ！」・・・揃いの真っ赤なハッピー、ジャンパーに身を包んだ老若男女が陣取る応援席より歓声が上がる。

2014年11月23日、秋晴れのもと両国駅に降り立った。全国大会参加を決めた各校の色とりどりの幟がところ狭ましと秋風にはためく中、我が校の幟目指し足を進めた。

両国国技館で開催された「全国高等専門学校 ロボットコンテスト2014」の応援観戦をする為だ。今回大島商船は昨年に続き、また全国に5つある商船高専の中で唯一の全国大会出場を果たした。

今年の競技課題は「出前迅速」、各校の作成したロボットが“蕎麦の蒸籠(せいろ)”を可能な限り積み上げ、3ヶ所ある障害をクリアして出前先まで蒸籠を届ける競技だ。



競技方法は1試合2チームが対戦し、3分間の間に多くの枚数の蒸籠を出前先に届けた方が勝利となる。一度に運ぶ蒸籠の枚数は各チームまちまちで、スタート前にチーム毎に枚数の申告を行うものである。

大島商船は“大島具足蟲(おおしまぐそくむし)”という具足蟲をモチーフとしたロボットで出場した。木材を骨格にした造りで他チームのそれ(アルミ等金属材料ベース)とは異なり、その動作も非常に遅く、正直なところ“迅速”性は望めないものであったが、対戦チームのミス等もあり、一度も蒸籠の“出前”を果たせない中、審査員判定でまさしく“運”に助けられ、あれよあれよと言う間に準決勝まで勝ち上がっていった。



準決勝においても蒸籠の出前を果たせず、得点を上げることが出来なかったが、25チーム参加した中で、ついには全国ベスト4まで登りつめる事となった。準決勝では優勝校に敗れはしたものの、表彰式ではデザイン賞と特別賞を受賞する事となりOB・学生共に大盛り上がりの観戦となった。

観戦後は両国駅近くの居酒屋での懇親会を開催、教官、学生課の方々も参加頂き、両国ならではの“ちゃんこ鍋”に舌鼓をしながら、学生諸君の奮闘にて全国大会ベスト4になった話題で大いに盛り上がりを見せる事となったのは言うまでもない。

大島商船は現在、商船学科(旧航海学科、機関学科)(S科)、電子機械工学科(M科)、情報工学科(I科)の3学科編成であり、私の在学中はまだ“商船高専”色の濃い頃であったが、おそらく昨今は大分変わってきているのではないかと当日学生と話して感じた。上級生・下級生の上下関係をあまり意識することなく、自由な環境の中でのびのびと勉学に励んでいるのではなかろうかと。

ただ、他の“工業高専”とは違い、“商船”教育をベースに発展してきた我々の学校(風土や環境)であるからこそ培われる技術やノウハウ、また精神面もあるのではないかと卒業後時折感じることもあるし、現在でもそのような風土や環境は脈々と引き継がれ、また学生たちもそう感じる瞬間があるのではなかろうか(具足蟲、というネーミングも“工業高専”生では思いつかないのではないだろうか)。

社会人になると常に結果を求められる。今回は全4試合とも“出前”という結果を出せずに終わった。結果は勿論大事であるが、ロボコンを始めとした各種コンテンツを通じて、結果に到達するまでのプロセス(開発～試験～本番、また学生たちで議論・コンセンサスを得るといったこと)を社会人になるまでに経験しておくことは非常に大事である。ここに辿り着くまでのプロセスおよび結果を今後の糧とし、また来年も全国大会まで勝ち進んでもらいたいものである。

我々もまた応援観戦に参加し、観戦後の打上げを含め、学生諸君・OB・学校関係者との親睦を深めることを楽しみにしたい。



以上